

改正後

現行

農林水産部（水産林務関係）

農林水産部（水産林務関係）

工事施工管理基準

工事施工管理基準

工事施工管理実施要領

工事施工管理実施要領

福岡県農林水産部

福岡県農林水産部

令和8年4月

令和8年2月

農林水産部（水産林務関係）工事施工管理基準

農林水産部（水産林務関係）工事施工管理基準

1～3 [略]

1～3 [略]

[1] 出来形管理基準

[1] 出来形管理基準

1～3 [略]

1～3 [略]

1. 共通工

1. 共通工

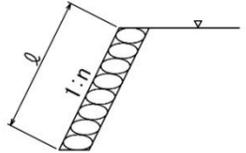
土工 [略]

土工 [略]

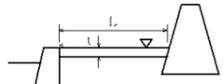
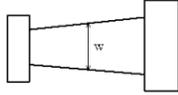
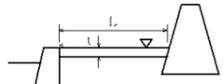
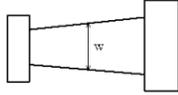
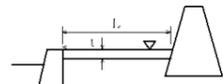
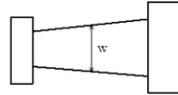
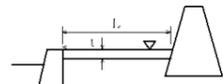
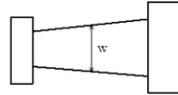
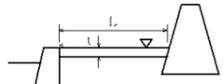
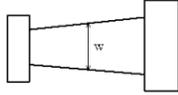
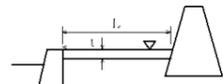
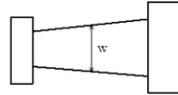
擁壁工 石積（張）工 ブロック積（張）工～コンクリート鍍止工 [略]

擁壁工 石積（張）工 ブロック積（張）工～コンクリート鍍止工 [略]

区分	工種	項目	規格値(mm)	測定基準	測定箇所
擁壁工	巨石積工 巨石張工	基準高	± 500	NO測点又は、 施工延長40m ごとに1箇所の 割合で測定す る。 1施工箇所で2箇 所以上測定する。	
		法長 l	- 200		
		延長 L	- 200		
基礎工	[略]				

区分	工種	項目	規格値(mm)	測定基準	測定箇所
擁壁工	巨石積工 巨石張工	基準高	± 50	NO測点又は、 施工延長20m ごとに1箇所の 割合で測定す る。 1施工箇所で2箇 所以上測定する。。	
		法長 l	- 50		
		延長 L	- 50		
基礎工	[略]				

○工事施工管理基準・実施要領（新旧対照表）

改正後	現行																																																																																																									
<p>矢板工～安全施設 [略]</p> <p>2. 水産工～3. 漁港工 [略]</p> <p>4. 治山工事</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width:10%;">工種</th> <th style="width:15%;">項目</th> <th style="width:15%;">規格値 (mm)</th> <th style="width:15%;">測定基準</th> <th style="width:45%;">摘要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>治山ダム</td> <td>[略]</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>谷止工 床固工 副堤 垂直壁</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">コンクリート</td> <td>基準高</td> <td>[略]</td> <td>[略]</td> <td rowspan="3">  </td> </tr> <tr> <td>幅 W</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>厚さ t</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>水叩工</td> <td>延長 L ※側壁工、垂直壁と併せて施工する場合は管理不要</td> <td></td> <td></td> <td>  </td> </tr> <tr> <td>鋼製ダム（不透過型）</td> <td>[略]</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>谷止工 床固工</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>鋼製ダム（透過型）</td> <td>[略]</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>谷止工 床固工</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	工種	項目	規格値 (mm)	測定基準	摘要	治山ダム	[略]				谷止工 床固工 副堤 垂直壁					コンクリート	基準高	[略]	[略]		幅 W			厚さ t			水叩工	延長 L ※側壁工、垂直壁と併せて施工する場合は管理不要				鋼製ダム（不透過型）	[略]				谷止工 床固工					鋼製ダム（透過型）	[略]				谷止工 床固工					<p>矢板工～安全施設 [略]</p> <p>2. 水産工～3. 漁港工 [略]</p> <p>4. 治山工事</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width:10%;">工種</th> <th style="width:15%;">項目</th> <th style="width:15%;">規格値 (mm)</th> <th style="width:15%;">測定基準</th> <th style="width:45%;">摘要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>治山ダム</td> <td>[略]</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>谷止工 床固工 副堤 垂直壁</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">コンクリート</td> <td>基準高</td> <td>[略]</td> <td>[略]</td> <td rowspan="4">  </td> </tr> <tr> <td>幅 W</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>厚さ t</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>延長 [追加] L</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>水叩工</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>  </td> </tr> <tr> <td>鋼製ダム（不透過型）</td> <td>[略]</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>谷止工 床固工</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>鋼製ダム（透過型）</td> <td>[略]</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>谷止工 床固工</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	工種	項目	規格値 (mm)	測定基準	摘要	治山ダム	[略]				谷止工 床固工 副堤 垂直壁					コンクリート	基準高	[略]	[略]		幅 W			厚さ t			延長 [追加] L			水叩工					鋼製ダム（不透過型）	[略]				谷止工 床固工					鋼製ダム（透過型）	[略]				谷止工 床固工				
工種	項目	規格値 (mm)	測定基準	摘要																																																																																																						
治山ダム	[略]																																																																																																									
谷止工 床固工 副堤 垂直壁																																																																																																										
コンクリート	基準高	[略]	[略]																																																																																																							
	幅 W																																																																																																									
	厚さ t																																																																																																									
水叩工	延長 L ※側壁工、垂直壁と併せて施工する場合は管理不要																																																																																																									
鋼製ダム（不透過型）	[略]																																																																																																									
谷止工 床固工																																																																																																										
鋼製ダム（透過型）	[略]																																																																																																									
谷止工 床固工																																																																																																										
工種	項目	規格値 (mm)	測定基準	摘要																																																																																																						
治山ダム	[略]																																																																																																									
谷止工 床固工 副堤 垂直壁																																																																																																										
コンクリート	基準高	[略]	[略]																																																																																																							
	幅 W																																																																																																									
	厚さ t																																																																																																									
	延長 [追加] L																																																																																																									
水叩工																																																																																																										
鋼製ダム（不透過型）	[略]																																																																																																									
谷止工 床固工																																																																																																										
鋼製ダム（透過型）	[略]																																																																																																									
谷止工 床固工																																																																																																										

○工事施工管理基準・実施要領（新旧対照表）

改正後					現行				
鋼製ダム～山腹工 集水井工（ライナープレート） [略]					鋼製ダム～山腹工 集水井工（ライナープレート） [略]				
工種	項目	規格値（mm）	測定基準	摘要	工種	項目	規格値（mm）	測定基準	摘要
山腹工 地すべり 排土工	[略]		施工延長20mごとに1箇所測定する。 施工延長20m以下は3箇所測定する。 測点を設定する場合は、測点管理を原則とする。 ※面管理の場合は、掘削工（切取工）（面管理の場合）を準用する。	[略]	山腹工 地すべり 排土工	[略]		施工延長20mごとに1箇所測定する。 施工延長20m以下は3箇所測定する。 測点を設定する場合は、測点管理を原則とする。 [追加]	[略]
山腹工 地すべり 押え盛土工	[略]		施工延長20mごとに1箇所測定する。 施工延長20m以下は3箇所測定する。 測点を設定する場合は、測点管理を原則とする。 ※面管理の場合は、盛土工（路体盛工）（路床盛工）（面管理の場合）を準用する。	[略]	山腹工 地すべり 押え盛土工	[略]		施工延長20mごとに1箇所測定する。 施工延長20m以下は3箇所測定する。 測点を設定する場合は、測点管理を原則とする。 [追加]	[略]
山腹工 ロープネット 張工	[略]				山腹工 ロープネット 張工	[略]			
山腹法切工	[略]		施工延長20mごとに1箇所測定する。 施工延長20m以下は3箇所測定する。 測点を設定する場合は、測点管理を原則とする。 ※面管理の場合は、掘削工（切取工）（面管理の場合）を準用する。	[略]	山腹法切工	[略]		施工延長20mごとに1箇所測定する。 施工延長20m以下は3箇所測定する。 測点を設定する場合は、測点管理を原則とする。 [追加]	[略]
山腹工 地山補強土工（ノンフレーム）～作業道 仮設道（指定） [略]					山腹工 地山補強土工（ノンフレーム）～作業道 仮設道（指定） [略]				
5. 道路工事～6. 森林整備 [略]					5. 道路工事～6. 森林整備 [略]				

○工事施工管理基準・実施要領（新旧対照表）

改正後

現行

[2] 品質管理基準 [略]

1 品質管理基準・規格値
セメント・コンクリート～アンカー工 [略]

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	試験基準	品質規格値	摘要
ロックボルト工	材料試験	その他	[略]				
			[削除]				
	施工試験	必須	セメントミルクのフロー値試験	[略]			
			セメントミルクの圧縮強度試験	[略]			
			緊張定着確認試験		施工本数の3%以上かつ1施工地で最低3本以上。 試験は、単サイクルで最大試験荷重まで載荷する。なお、載荷方法は原点荷重を0.5tfとし、各段階の増加荷重のきざみを1.0tfとする。また、各段階での荷重保持時間は5分とし、荷重速度については1.0tf/minとする。	設計荷重に対して十分安全であること。	確認試験に用いた以外のボルトについては、計画最大荷重まで載荷して緊張定着を行い、その記録を自主管理すること。 「ロックボルトの引抜試験」を参考に実施する。

集水井工～補強土壁工 [略]

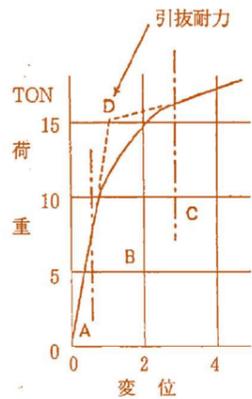
[2] 品質管理基準 [略]

1 品質管理基準・規格値
セメント・コンクリート～アンカー工 [略]

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	試験基準	品質規格値	摘要
ロックボルト工	材料試験	その他	[略]				
			セメントミルクの塩化物総量規制	JIS A-6204 附-3	注入開始当初及び注入施工日毎に1試験行う。1試験の測定回数は3回とし、試験の判定は3回の測定値の平均値で行う。	0.3kg/m ³ 以下。	
	施工試験	必須	セメントミルクのフロー値試験	[略]			
			セメントミルクの圧縮強度試験	[略]			
			緊張定着確認試験		施工本数の5%以上かつ1施工地で最低3本以上。 試験は、単サイクルで最大試験荷重まで載荷する。なお、載荷方法は原点荷重を0.5tfとし、各段階の増加荷重のきざみを1.0tfとする。また、各段階での荷重保持時間は5分とし、荷重速度については1.0tf/minとする。	設計荷重に対して十分安全であること。	確認試験に用いた以外のボルトについては、計画最大荷重まで載荷して緊張定着を行い、その記録を自主管理すること。 [追加]

集水井工～補強土壁工 [略]

○工事施工管理基準・実施要領（新旧対照表）

改 正 後	現 行
<p>2 レディーミクストコンクリートの品質確保について～ 5 公的試験機関での品質管理試験の実施について [略]</p> <p style="text-align: center;">6 ロックボルトの引抜試験</p> <p>(1) 計測の目的 ロックボルトの定着効果を確認することを目的とする。</p> <p>(2) 計測の要領 ロックボルトの引抜試験方法に従って行う。 実施時期は施工後3日経過後とし、引抜試験耐力はロックボルト引抜耐力の80%程度以上とする。</p> <p>(3) 結果の報告 計測結果は図4-1の要領で整理する。</p> <p>(4) 試験後のボルトの処置 引抜試験の結果が荷重変位曲線図4-1のA領域に留まっている状態の場合には、試験後のボルトはそのままとし、これを補うボルトは打設しないものとする。 図のB領域に入る場合には、その他のボルトの状況を判断して施工が悪いと思われるものについては、試験したボルトを補うボルトを打設する。また地山条件によると思われる場合には地中変位や、ロックボルトの軸力分布等を勘案して、ロックボルトの設計を修正する。</p> <div style="text-align: center;">  <p>図4-1 ロックボルト引抜試験</p> </div> <p>(ロックボルトの引抜試験方法) この方法はISRMの提案する方法に準拠したものである。 (International Society for Rock Mechanics, Commission on Standardization of Laboratory and Field Tests, Committee on Field Tests Document No.2, 1974)</p> <p>(1) 引抜試験準備 ロックボルト打設後に、載荷時にボルトに曲げを発生しないように図4-2のように反力プレートをボルト軸に直角にセットし、地山との間は早強石膏をはりつける。</p> <p>(2) 引抜試験 引抜試験は、図4-3のようにセンターホールジャッキを用い、油圧ポンプで1ton毎の段階載荷を行って、ダイヤルゲージでボルトの伸びを読み取る。</p> <p>(3) 全面接着式ボルトの場合の注意事項 (イ) 吹付コンクリートが施工されている時は、コンクリートを取りこわして岩盤面を露出させるか、あるいは、あらかじめ引抜試験用のロックボルトに、吹付コンクリートの付着の影響を無くすよう布等を巻いて設置して試験を行うのが望ましい。ロックボルトに歪みゲージを貼付けて引抜試</p>	<p>2 レディーミクストコンクリートの品質確保について～ 5 公的試験機関での品質管理試験の実施について [略]</p> <p>[追加]</p>

○工事施工管理基準・実施要領（新旧対照表）

改正後

現行

験の結果が得られている場合には、その結果を活用することにより、特に吹付コンクリートを取り壊す必要がない場合もある。

- (ロ) 反力は、ロックボルトの定着効果としてピラミッド形を考慮する場合には、できるだけ孔等は大きいものを用い、ボルト周辺岩盤壁面を拘束しないこと。
- (ハ) ロックボルトの付着のみを考慮する場合は、反力をできるだけロックボルトに近づけること。

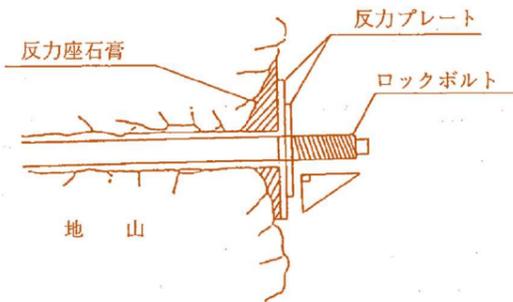


図4-2 反力座の設置

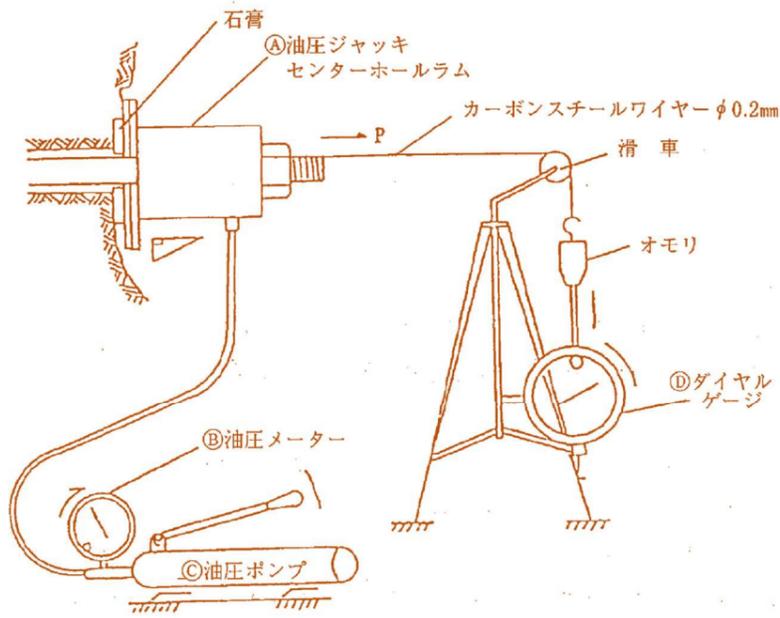


図4-3 引抜試験概要図

○工事施工管理基準・実施要領（新旧対照表）

改 正 後	現 行																																																																																																		
<p>[3] 写真管理基準 [略]</p> <p>【別表】写真撮影要領</p> <p>1 工事写真分類別撮影要領</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>区分</th> <th>撮影頻度</th> <th>撮影の要点及び注意事項</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>着手前・完成</td> <td>[略]</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>施工状況</td> <td>[略]</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>安全管理</td> <td>[略]</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">使用材料</td> <td>材料検収</td> <td>品目毎</td> <td>当該工事に使用する資材（主として二次製品）の材料検収状況写真であり、使用後に種別、数量、形状、規格、寸法等が確認できない部分を写真で証明するもので、資材を現場に搬入後、使用前に撮影すること。 また、J I S規格品以外については、撮影に際しては規格、形状、寸法等が確認できるよう明示し、測定尺を当て行うこと。 また材料の保管状況も撮影すること。</td> </tr> <tr> <td>品質証明</td> <td>品目毎</td> <td>J I S規格品は、J I S表示が確認できるよう撮影すること。</td> </tr> <tr> <td>検査実施状況</td> <td>[略]</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>品質管理～その他 [略]</p> <p>2 工種別撮影要領</p> <p>(1) 共通工事</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>工 種</th> <th>種 別</th> <th>撮影項目</th> <th>撮影頻度</th> <th>撮影の要点及び注意事項</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>土工</td> <td>[略]</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">基礎工</td> <td>コンクリート基礎</td> <td>幅、高さ</td> <td>1 施工箇所 毎 変化点毎</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 型枠の設置状況、コンクリートの打設、養生等の施工状況がわかるように撮影する。 脱枠後、幅、高さ等の寸法が確認できるように測定尺を当てて撮影する。(延長については不要とし、測点の位置がわかる施工状況写真を撮影する。) </td> </tr> <tr> <td>栗石等基礎</td> <td>幅、厚さ</td> <td>1 施工箇所 毎 変化点毎</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 栗石の敷均し、締固め、目潰し仕上げ等の施工状況がわかるように撮影する。 栗石等基礎仕上げ後に、幅、厚さ等の寸法が確認できるように測定尺を当てて撮影する。(延長については不要とし、測点の位置がわかる施工状況写真を撮影する。) </td> </tr> <tr> <td>胴木梯子土台</td> <td>[略]</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>基礎工（木杭）～矢板工 [略]</p>	分類	区分	撮影頻度	撮影の要点及び注意事項	着手前・完成	[略]			施工状況	[略]			安全管理	[略]			使用材料	材料検収	品目毎	当該工事に使用する資材（主として二次製品）の材料検収状況写真であり、使用後に種別、数量、形状、規格、寸法等が確認できない部分を写真で証明するもので、資材を現場に搬入後、使用前に撮影すること。 また、 J I S規格品以外については、撮影に際しては規格、形状、寸法等が確認できるよう明示し、測定尺を当て行うこと。 また材料の保管状況も撮影すること。	品質証明	品目毎	J I S規格品は、J I S表示が確認できるよう撮影すること。	検査実施状況	[略]		工 種	種 別	撮影項目	撮影頻度	撮影の要点及び注意事項	土工	[略]				基礎工	コンクリート基礎	幅、高さ	1 施工箇所 毎 変化点毎	<ul style="list-style-type: none"> 型枠の設置状況、コンクリートの打設、養生等の施工状況がわかるように撮影する。 脱枠後、幅、高さ等の寸法が確認できるように測定尺を当てて撮影する。(延長については不要とし、測点の位置がわかる施工状況写真を撮影する。) 	栗石等基礎	幅、厚さ	1 施工箇所 毎 変化点毎	<ul style="list-style-type: none"> 栗石の敷均し、締固め、目潰し仕上げ等の施工状況がわかるように撮影する。 栗石等基礎仕上げ後に、幅、厚さ等の寸法が確認できるように測定尺を当てて撮影する。(延長については不要とし、測点の位置がわかる施工状況写真を撮影する。) 	胴木梯子土台	[略]			<p>[3] 写真管理基準 [略]</p> <p>【別表】写真撮影要領</p> <p>1 工事写真分類別撮影要領</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>区分</th> <th>撮影頻度</th> <th>撮影の要点及び注意事項</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>着手前・完成</td> <td>[略]</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>施工状況</td> <td>[略]</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>安全管理</td> <td>[略]</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">使用材料</td> <td>材料検収</td> <td>品目毎</td> <td>当該工事に使用する資材（主として二次製品）の材料検収状況写真であり、使用後に種別、数量、形状、規格、寸法等が確認できない部分を写真で証明するもので、資材を現場に搬入後、使用前に撮影すること。 また、撮影に際しては規格、形状、寸法等が確認できるよう明示し、測定尺を当て行うこと。 また材料の保管状況も撮影すること。</td> </tr> <tr> <td>品質証明</td> <td>品目毎</td> <td>J I S規格品は、J I S表示が確認できるよう撮影すること。</td> </tr> <tr> <td>検査実施状況</td> <td>[略]</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>品質管理～その他 [略]</p> <p>2 工種別撮影要領</p> <p>(1) 共通工事</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>工 種</th> <th>種 別</th> <th>撮影項目</th> <th>撮影頻度</th> <th>撮影の要点及び注意事項</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>土工</td> <td>[略]</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">基礎工</td> <td>コンクリート基礎</td> <td>幅、高さ <u>延長</u></td> <td>1 施工箇所 毎 変化点毎</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 型枠の設置状況、コンクリートの打設、養生等の施工状況がわかるように撮影する。 脱枠後、幅、高さ、<u>延長</u>等の寸法が確認できるように測定尺を当てて撮影する。 </td> </tr> <tr> <td>栗石等基礎</td> <td>幅、厚さ <u>延長</u></td> <td>1 施工箇所 毎 変化点毎</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 栗石の敷均し、締固め、目潰し仕上げ等の施工状況がわかるように撮影する。 栗石等基礎仕上げ後に、幅、厚さ、<u>延長</u>等の寸法が確認できるように測定尺を当てて撮影する。 </td> </tr> <tr> <td>胴木梯子土台</td> <td>[略]</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>基礎工（木杭）～矢板工 [略]</p>	分類	区分	撮影頻度	撮影の要点及び注意事項	着手前・完成	[略]			施工状況	[略]			安全管理	[略]			使用材料	材料検収	品目毎	当該工事に使用する資材（主として二次製品）の材料検収状況写真であり、使用後に種別、数量、形状、規格、寸法等が確認できない部分を写真で証明するもので、資材を現場に搬入後、使用前に撮影すること。 また、撮影に際しては規格、形状、寸法等が確認できるよう明示し、測定尺を当て行うこと。 また材料の保管状況も撮影すること。	品質証明	品目毎	J I S規格品は、J I S表示が確認できるよう撮影すること。	検査実施状況	[略]		工 種	種 別	撮影項目	撮影頻度	撮影の要点及び注意事項	土工	[略]				基礎工	コンクリート基礎	幅、高さ <u>延長</u>	1 施工箇所 毎 変化点毎	<ul style="list-style-type: none"> 型枠の設置状況、コンクリートの打設、養生等の施工状況がわかるように撮影する。 脱枠後、幅、高さ、<u>延長</u>等の寸法が確認できるように測定尺を当てて撮影する。 	栗石等基礎	幅、厚さ <u>延長</u>	1 施工箇所 毎 変化点毎	<ul style="list-style-type: none"> 栗石の敷均し、締固め、目潰し仕上げ等の施工状況がわかるように撮影する。 栗石等基礎仕上げ後に、幅、厚さ、<u>延長</u>等の寸法が確認できるように測定尺を当てて撮影する。 	胴木梯子土台	[略]		
分類	区分	撮影頻度	撮影の要点及び注意事項																																																																																																
着手前・完成	[略]																																																																																																		
施工状況	[略]																																																																																																		
安全管理	[略]																																																																																																		
使用材料	材料検収	品目毎	当該工事に使用する資材（主として二次製品）の材料検収状況写真であり、使用後に種別、数量、形状、規格、寸法等が確認できない部分を写真で証明するもので、資材を現場に搬入後、使用前に撮影すること。 また、 J I S規格品以外については、撮影に際しては規格、形状、寸法等が確認できるよう明示し、測定尺を当て行うこと。 また材料の保管状況も撮影すること。																																																																																																
	品質証明	品目毎	J I S規格品は、J I S表示が確認できるよう撮影すること。																																																																																																
	検査実施状況	[略]																																																																																																	
工 種	種 別	撮影項目	撮影頻度	撮影の要点及び注意事項																																																																																															
土工	[略]																																																																																																		
基礎工	コンクリート基礎	幅、高さ	1 施工箇所 毎 変化点毎	<ul style="list-style-type: none"> 型枠の設置状況、コンクリートの打設、養生等の施工状況がわかるように撮影する。 脱枠後、幅、高さ等の寸法が確認できるように測定尺を当てて撮影する。(延長については不要とし、測点の位置がわかる施工状況写真を撮影する。) 																																																																																															
	栗石等基礎	幅、厚さ	1 施工箇所 毎 変化点毎	<ul style="list-style-type: none"> 栗石の敷均し、締固め、目潰し仕上げ等の施工状況がわかるように撮影する。 栗石等基礎仕上げ後に、幅、厚さ等の寸法が確認できるように測定尺を当てて撮影する。(延長については不要とし、測点の位置がわかる施工状況写真を撮影する。) 																																																																																															
	胴木梯子土台	[略]																																																																																																	
分類	区分	撮影頻度	撮影の要点及び注意事項																																																																																																
着手前・完成	[略]																																																																																																		
施工状況	[略]																																																																																																		
安全管理	[略]																																																																																																		
使用材料	材料検収	品目毎	当該工事に使用する資材（主として二次製品）の材料検収状況写真であり、使用後に種別、数量、形状、規格、寸法等が確認できない部分を写真で証明するもので、資材を現場に搬入後、使用前に撮影すること。 また、撮影に際しては規格、形状、寸法等が確認できるよう明示し、測定尺を当て行うこと。 また材料の保管状況も撮影すること。																																																																																																
	品質証明	品目毎	J I S規格品は、J I S表示が確認できるよう撮影すること。																																																																																																
	検査実施状況	[略]																																																																																																	
工 種	種 別	撮影項目	撮影頻度	撮影の要点及び注意事項																																																																																															
土工	[略]																																																																																																		
基礎工	コンクリート基礎	幅、高さ <u>延長</u>	1 施工箇所 毎 変化点毎	<ul style="list-style-type: none"> 型枠の設置状況、コンクリートの打設、養生等の施工状況がわかるように撮影する。 脱枠後、幅、高さ、<u>延長</u>等の寸法が確認できるように測定尺を当てて撮影する。 																																																																																															
	栗石等基礎	幅、厚さ <u>延長</u>	1 施工箇所 毎 変化点毎	<ul style="list-style-type: none"> 栗石の敷均し、締固め、目潰し仕上げ等の施工状況がわかるように撮影する。 栗石等基礎仕上げ後に、幅、厚さ、<u>延長</u>等の寸法が確認できるように測定尺を当てて撮影する。 																																																																																															
	胴木梯子土台	[略]																																																																																																	

○工事施工管理基準・実施要領（新旧対照表）

改 正 後					現 行							
工 種	種 別	撮影項目	撮影頻度	撮影の要点及び注意事項	工 種	種 別	撮影項目	撮影頻度	撮影の要点及び注意事項			
水路（側溝）工	U型溝、L型溝 U型フリューム溝 自由勾配側溝 コルゲート水路等	基礎工		<ul style="list-style-type: none"> 前記基礎工に準じて撮影する。 	水路（側溝）工	U型溝、L型溝 U型フリューム溝 自由勾配側溝 コルゲート水路	基礎工		<ul style="list-style-type: none"> 前記基礎工に準じて撮影する。 			
		形状、寸法 施工状況	規格毎	<ul style="list-style-type: none"> 材料搬入時に、種別ごとの検収状況を撮影する。 また、JIS規格品以外については、形状、寸法がわかるように測定尺を当てて撮影する。 JIS規格品は、JIS表示が確認できるように撮影する。 製品の敷設状況及び目地モルタル等の施工状況がわかるように、局部及び全景を撮影する。 暗渠工については、管敷設時の出来形管理写真（延長）は不要とし、測点の位置がわかる施工状況写真を撮影する。 			形状、寸法 施工状況	規格毎	<ul style="list-style-type: none"> 材料搬入時に、種別ごとの検収状況及び形状、寸法がわかるように測定尺を当てて撮影する。 JIS規格品は、JIS表示が確認できるように撮影する。 製品の敷設状況及び目地モルタル等の施工状況がわかるように、局部及び全景を撮影する。 [追加] 			
		横断溝 （補強コンクリート）		[略]				横断溝 （補強コンクリート）		[略]		
		集水樹		[略]				集水樹		[略]		
	管渠工		[略]		管渠工		[略]					
柵工		[略]		柵工		[略]						
法面覆工		[略]		法面覆工		[略]		法面覆工（コンクリート吹付工・モルタル吹付工）～道路安全施設 [略]				
<p>法面覆工（コンクリート吹付工・モルタル吹付工）～道路安全施設 [略]</p> <p>（2）治山溪間工事～（5）森林整備 [略]</p> <p>3 品質管理写真要領 [略]</p>					<p>法面覆工（コンクリート吹付工・モルタル吹付工）～道路安全施設 [略]</p> <p>（2）治山溪間工事～（5）森林整備 [略]</p> <p>3 品質管理写真要領 [略]</p>							

○工事施工管理基準・実施要領（新旧対照表）

改正後

現行

4-(5) 切取・盛土法面管理表 [削除]

4-(5) 切取・盛土法面管理表

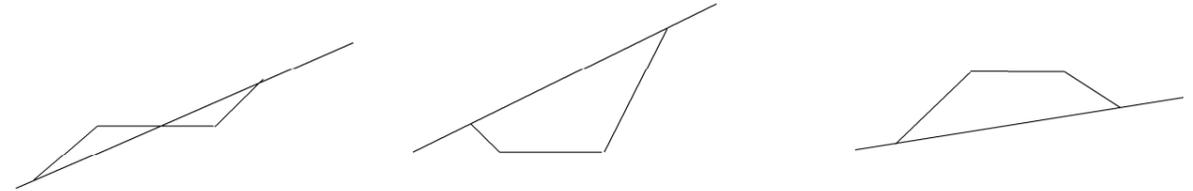
4-(5)

切取・盛土法面管理表

① 土羽+切取

② 切取+切取

③ 土羽+土羽



測点	形式番号	種別	左（土羽・切取）								形式番号	種別	右（土羽・切取）							
			法長（-100mm・+2%）				勾配（±10%）						法長（-100mm・+2%）				勾配（±10%）			
			法長	勾配	法長	勾配	法長	勾配	法長	勾配			法長	勾配	法長	勾配	法長	勾配	法長	勾配
No1		設計値										設計値								
		管理値										管理値								
		差										差								
No2		設計値										設計値								
		管理値										管理値								
		差										差								
No3		設計値										設計値								
		管理値										管理値								
		差										差								
No4		設計値										設計値								
		管理値										管理値								
		差										差								

-173-

4-(5) ~ 4-(17) [略]

4-(6) ~ 4-(18) [略]

5) ~ 7) [略]

5) ~ 7) [略]